

## case 1

# UIJターン による起業

東京・三軒茶屋の人気の  
レストランが生まれ故郷  
の沼津に U ターンして、  
陽気な食堂をオープン



Baker's Dozen  
(ベイカーズダズン)  
町方町 9-1  
☎ 055-954-2266

左から）東京時代からの友人・池川さん、沼津に来てから仲間入りした井本さん、オーナーの塩川さん、三軒茶屋時代からのスタッフ・ケビンさん

沼津での就職をサポートします！

## 沼津しごと応援サイト『ぬまjob』



<https://numa-job.net/homes>



人材を探している市内企業と、沼津で働きたいと考えている求職者のマッチングを図る目的で市が運営している就職支援サイトです。簡単な手続きで市内企業からの最新の求人情報がご覧頂けます。

これからも市では、みんなの「沼津で働きたい」という想いの実現に向け、様々な形でサポートしていきます。

ふるさとだからこそ  
夢に手が届く

る場所であることだそうです。「Baker's Dozen」の名前には、パン屋さんが1ダース12個のパンを頼まされたら1つを余分に渡すという風習に倣い、そんな思いがけない幸せをお客さんに届けられるようにしたいとの想いが詰まっています。

自分らしく働くために地元に帰つて起業した塩川さんは、都心部で働くことを体感したからこそ、沼津が持つ魅力やふるさとで働く意義を感じることができたと言います。これから進学や就職のために沼津を離れる人もいますが、塩川さんのようにふねやとで働くことは、自分らしく暮らす選択肢のひとつであることを心に留めて下さい。

知人もあまり多くない土地で始めたお店だったため、苦労しましたが、徐々に常連客も増え、軌道に乗り始めました。充実しつつも、慌ただしい東京での暮らしに疑問を覚え、精神的に豊かに暮らしたいとの想いから、いつかは沼津に帰りたいと考えていた塩川さん。そんな中で迎えた移転という転機。

東京で新たな物件を探す最中に、デザイナーの仕事をしていた奥さんが、沼津のリノベーションま

後押ししたのは駄の改札を出で奥さんが言つた「いいまちだね」の一言。まちなかを川が流れ、山や海などの自然があふれる沼津。東京で働くうちに故郷の魅力を忘れかけていましたが奥さんにはとても魅力的に感じられたそうです。

東京時代の仲間も塩川さんの想いに共感し、沼津に移住しました。勝手を知るメンバーと一緒に新築だからこそ、自分たちらしい新たなお店が完成しました。

自分にじく働くためは  
ふるさと沼津へ

新仲見世商店街を南に抜け、  
沼津銀座と交差する角にあるオ  
レンジ色の壁とグリーンのアーチ  
が印象的な「Baker's Dozen」。  
東京の三軒茶屋で人気を博した  
イタリア食堂が、ビルの建て替え  
により移転をせまられたこと  
で、オーナー塩川雅也さんの出  
身地である沼津で今年の4月に  
再オープンしました。



看板メニューの貝がたっぷり入ったパスタ「KAITZUKA」のほか、その日限定の黒板メニューもたくさんあります

特集

## 自分らしく暮らすための ひとつの仕事の形

起業

働くということは、その仕事に多くの時間を費やすことと言えます。生まれ故郷で働く、都心部に出る、企業に勤める、家業を継ぐなど、その人の考え方や置かれた環境によって、場所・時間・雇用形態や仕事内容など、様々な選択肢があります。

その中のひとつが「起業」です。自らがやりたいことを自らの考え方で形にしていく。そこには、様々な困難があるかもしれません。しかし、想いが形になった時、その喜びは計り知れないはずです。

今、沼津市では、行政の支援だけではなく、市民の中から起業を支えていこうといった動きが活発になってきています。今回の特集では、起業をして頑張っている人や起業に向けてチャレンジする人、こうした人たちを支えていこうとする人を紹介します。

問工振興課 ☎ 055-934-4799